

崔書勉先生と私

元公益財団法人 日韓文化交流基金業務執行理事 阿部 孝哉

この度の六〇周年記念文集発刊に際して、「崔書勉滞日三〇周年記念文集」と「日本上陸五十五周年記念寄稿集」に改めて目を通して、崔先生と諸先輩との交流の足跡を辿ってみると、一期一会の姿勢で様々な出会いに真摯に臨んでいる崔先生の姿が見えてきます。

私の崔先生とのお付き合いの中で特に記憶に残る経験は、作家の故韓雲史先生の墓所を先生の案内で訪問したことがあります。二〇〇九年一〇月、偶々韓国を訪問した私のために旧知の韓雲史先生の墓参をアレンジしてくださり、韓先生の御子息とともに車で片道四時間ほどかけて韓国内陸部の江原道の公園墓地を訪れました。秋の野辺に翠霞がたなびく穏やかな日和の中で、丘陵の最上段にある墓所で崔先生とともに一片の雲を仰ぎ見ながら故人を偲んだ情景が懐かしく思い起こされます。

崔先生は鬼籍に入られた日本の知人の方々の墓参を数多くされていますが、死後も故人との縁を大切にされているその姿勢は敬虔なクリスチャンであることだけがその理由ではないと思われまます。崔書勉先生の日韓関係における数々の足跡は余人の言に譲るとして、私が崔先生との交際を通じて感じた中で特筆すべきことは、なんといっても他人に接する時の一期一会の姿勢です。茶会の心得といわれている一期一会の精神は究極の人生観といってもいいのではないかと思えますが、利害得失に流される世俗社会においては凡人には修養なくしてその実行は至難の業です。正に人生の数々の試練に耐え、修練を積んでこられた崔先生ならではの境地ではないかと思われまます。

崔先生の知遇を得た人なら誰しも、先生の気宇壮大で真摯な人となりに感銘を受け、時間と空間を共有できたことに至福の思いを抱くものと思えます。

近年、崔先生とお会いする機会は殆んどありませんが、過去にお会いした時の情景を折に触れて思い浮かべます。また、日韓談話室の世話人として永年にわたり献身された故寺田佳子さんが亡くなられて早や一年が経ちますが、日韓談話室という

寺田さんのお姿が偲ばれます。六〇周年というお祝いに寺田さんが居られないのは大変残念です。

崔書勉先生の日本上陸六〇周年という年輪を心よりお祝い申し上げます、先生の更なるご健勝を祈念致します。多謝頓首

